

第 2 回札幌恵庭自転車道線恵庭工区延伸ルート検討委員会【概要版】

【開催日時】平成 22 年 5 月 27 日（木）13：30～16：30

【開催場所】恵庭市役所 3 階 第 1 委員会室

【出席者】

〔委員〕泉谷清、内田信一、鏡貢、木内克昌、竹内栄、藤本治聖、
掛水美枝子、喜多昌幸、久村隆一、平野哲雄
（欠席委員：川向康文、丹伊田哲也、永井晋二）

〔アドバイザー〕岸邦宏（北海道大学大学院工学研究院准教授）

〔ワザバー〕山本浩之（北海道空知総合振興局札幌建設管理部事業室道路課舗装係長）
東谷和雄（北海道空知総合振興局札幌建設管理部千歳出張所長）

佐伯伸基（" 道路係長）

大坪順一（" 道路係主任）

事務局 寺崎博裕（企画振興部長）、黒牧智器（都市計画課長）、
平井誠（同主査）、大嶋克幸（同主査）

〔傍聴者〕6 名

【会議概要】

1. 開 会 （司会）黒牧課長

2. 挨拶 寺崎部長

3. 現地視察 市内

4. 談 話 岸北大大学院准教授
「道道札幌恵庭自転車道線のルート検討について」

5. 議 事 （ワークショップ形式）

（1）整備方針について

（2）ルートについて

（3）発表・講評

6. その他

7. 閉 会

意見交換要旨（Aグループ）

意見分類	意見要旨
ルート	アイデアフラッシュ ・ 既存の自転車歩行者道の活用（を考えてはどうか） ・ 漁川ルートは今のまま（の利用）でいいのでは（ないか） ルートの方向性検討 → 結論 “ まちなかルート ” ・ 平らな地形特性を活かし、住宅地で生活交通を担うルートを。 ・ 市民が自転車に乗る機会・きっかけとなる道づくりを。 ・ 郊外のルートはレクリエーションで走るには楽しくて良いが、街と離れる。 ・ 利便性を考えると、“ まちのなかでのルート ” が望ましい。 ・ 市街地ルートなら夜間も利用があるのではないか。 ・ 自転車道で人の流れを呼び込むことで、沿道の店舗立地や更新も期待される。 「住宅地内ルート」の “ 作り方 ” ・ 札幌恵庭自転車道線は、札幌 恵庭の広域路線であると同時に、恵庭市内の島松・恵み野・恵庭の３つの地域を連結する幹線となる。 ・ 「幹線（札幌恵庭自転車道線）」と「枝線」で、市内のネットワークを構築する。 ・ 札幌市内の住宅街を通る白石サイクリングロードのようなイメージか。恵庭の魅力あるエコなまちづくりに寄与する道づくりを。 ・ 恵み野の住宅地の中を細かく通すことも考えられ、どのように通すかが検討のポイントとなる。 ・ 自転車道が接続すべき施設としては、学校・図書館など。 ・ ポケットパーク、休憩所・トイレ等の配置も必要であり、市民の憩いやコミュニケーションの場となるようにすべき。 ・ ゆとりある、花とみどりを感じられる空間づくりが好ましい。 ・
その他	議論の前提確認 ・ 札幌恵庭自転車道線のルート検討であり、「整備する・しない」の議論ではない。 ・ 整備主体は道であるが、維持管理において地元自治体も協力していくこととなる。 ・ 今回の議論では、整備可否までは考慮せず、地元の希望する「理想ルート」を提案することとする。

意見交換要旨（Ｂグループ）

意見分類	意見要旨
ルート	ルートの方向性検討 → 結論 “ 快適・安全・安心のサイクリングロード ” ・ サイクリングは、快適性ある道（づくり）が良い。 ・ 車を気にしないで走れる道路が良い。安心できる道（づくりが良い） ・ 安全対策（に配慮した道づくりが良い） ・ （自転車と人が）共存する事を考えるのも大事 ・ 景観が良い道（づくり） ・ 跨線橋の上が（良い景観を眺められる所で）良い。 ・ 将来の事を考えて、ルート設定（をした方が良い）。 ルートの“作り方” → 結論 “ 盤尻地区に繋がるルート ” ・ 周辺の主要な道路へのアクセス（が便利なルートが良い） ・ 盤尻（地区に繋がるルートが良い）。盤尻の方を（視察で）見てはどうか。 ・ 盤尻はサイクリングが多く利用（している） ・ アピールポイントは、道の駅、郷土資料館、自然。新篠津でとんぼが舞っている姿（を自転車から見た時）は感激した。 ・ （自転車は）風が影響する、郊外は風が強い、森の中はそうでもない。防風柵のようなものの設置（が必要か）。 ・ 買物は今ある道路を利用する。日常利用は歩道で足りる。 ・ サイクリングロードであれば、レクリエーション利用（が良い） ・ 家の出入口には段差あり。クリアできるか？ ・ 信号の影響を受けず、段差のないストレートな道路が理想。 ・ 歩車分離（をした方）が良い。 ・
その他	・ 漁川は通れるのか。漁川でサイクリング（のイベント）をやっている。管理上の点はどうか。かなり厳しい。